

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 2年次生 山本悠真

研修先 TAFE NSW Kingscliff

研修期間 令和6年3月11日～3月20日

- 1、渡航前に考えていた自分の目標
- 2、その目標は渡航後どうだったか
- 3、これからの自分
- 4、交流体験
- 5、渡航先について

1、渡航前に考えていた自分の目標

私は、今回のオーストラリア薬学語学研修参加に際して立てた目標は、出来るだけ多くの人と積極的に対話することを心掛けることと、英会話などの語学力向上が目的でした。なぜなら、私は人との対話が得意でなく、自ら話しかけに行くことが苦手であったためです。このことを改善し、日本を離れて大きな環境の変化を通して、出来るだけ多くの人と積極的に対話することを目標にしました。もう一つの目標である、英会話力の向上については、外国の人達とコミュニケーションを取れるようになると、色々な国の人々の考え方や価値観を学ぶことができると思ったからです。

2、その目標は渡航後どうだったか

先ず、多くの人と積極的に対話するという目標については、ある程度、達成できたかと思えます。オーストラリアでの生活に先立って、今回の研修に参加するメンバーと、コミュニケーションを取ることを心掛け、積極的に話の輪に入ることができました。オーストラリアでのホストファミリーに対しても、英語で自分の意見をしっかりと伝えるまで話すこともできました。また、英語力の向上ということに関しては、ホストファミリーに英語の発音の仕方を教わったり、渡航前に学習した英語の文章を実際に使ってみたりしました。現地での英語の授業では、積極的に発言をし、わからないところは質問をするというところを心がけました。また、英語で日記を書くことを進められたため、自分なりに英語で日記を書くことも試みました。

3、これからの自分



オーストラリア薬学語学研修を終えて、自分の英語力を更に上げるために、英語の勉強を継続していきたいと思いました。今回の研修中では、ホストマザーが話してくれた内容について何度も聞き直しても、内容を十分に理解できなく、「ごめんね 難しい内容で」というようなことを言われてしまうことがありました。また、自分が言いたいことを表す英単語や表現の仕方が出てこなくて、そ

の都度 google 翻訳を使っていました。そのような場面では毎回、自分の英語力の不十分さに悔しい思いをし、これまでにしっかり勉強しておけばよかったと思ったからです。また、薬学の授業では、オーストラリアでの薬に関する様々な現状について講義を受けました。オーストラリアでは、薬に関することが日本とは全く異なっていて驚きました。今回の研修で、薬に関する事情が国によって異なるということを知ったので、諸外国の状況を自分で調べていきたいと思いました。

4、交流体験

ホームステイ先では、知っておくべき家庭内のルールや、食事に関することなどを明確にするために、積極的に話しかけることを意識しました。ホストファミリーが、私の話が終わるまで黙って話を聞いてくれたため、落ち着いて考えながら話すことができました。また、ホストファミリーが、英語を上達させるには様々な人と話をするのが良いと言われ、オーストラリアに着いて数日が経った頃に、祖父母の家に連れて行ってくれました。その時に、私に対して多くの人が積極的に会話をしてくれたおかげで、英語を話す機会が増え、またいろいろな価値観を学ぶことができました。また、11 日間の滞在期間中に、他のホストファミリーの家に泊まったり、タコスパーティーにも参加したりしました。その際には、自分のホストファミリーが心配しないように事前に予定を伝えたり、送迎も自分で頼むことができました。

5、渡航先について

オーストラリアの気候は、日本とは逆で夏でしたが、日本の夏とは違い湿度が低くとても過ごしやすかったです。また、日差しが強く、数時間外に出ただけですぐに日焼けしてしまうほどでした。なので、現地の人から日焼け止めを常に塗ることを強く進められました。生活環境としては、みんな日本に比べて就寝時間が早く、午後 10 時近くにはもう、ベッドに入っていることが多く、早寝早起きをすることが当たり前のような状況に少し驚きました。また、夜は涼しくなるため、夏と言えどもファンが一つあれば寝苦しくありませんでした。食べ物に関しては、ホストファミリーがオーストラリアならではの料理を出してくれたり、意識して生野菜を多く出してくれました。しかし、外食では生野菜が全然なく、野菜がポテトだけということも少なくありませんでした。

